

新春政談

一郎石 仁治万 田岡中 門西山 議長 教育長 議員



議長 村長 教育長

村の将来

人口は減少するが
経営は大きく改善

司会「昨年の国勢調査の中間発表によりますと、五年前にくらべて大豊の人口も二十四万人減り、一万五千人台になりました。これからは、ますます減るだろうと思われ、村の将来というものは一体どのような方向をたどるのでしょうか。」

村長「村の将来というものは、国の政策によって大きく左右されるものですが、当面は人口も減少すると思えます。しかし、ここ十年内には一応着々くではないかと思えます。」

議長「落着いても、年寄りだけで

落着いてはいかぬですね。」

村長「そのとおりです。大豊の農業も大部分が兼業で零細ですが、今後、基盤整備、構造改善など近代化が進められれば、帰農する若者もでき、落着いた経営形態がとられるかと思われ、ますね。」

議長「国道も改良が終り、本州への夢の架橋も実現できると、時間的にいって、阪神経済圏へも、ぐっと近くなり山間地とはいえず、県内では地の理に恵まれているといふことがいえますね。」

重点施策は道路網の整備

司会「さて、その内容をどのように入念に検討していくか、具体的なことに人っていきなさいと思いますが。」

村長「国道があり、完全舗装の国道が縦貫していても、これに連なる道路網の整備が遅れている。これは近代化への道は遅いわけですから、そこで、今までの村の重点施策として、これら道路の充実をはかることを、とりあげるつもりです。」

議長「先ず、四十一年度は国道の改良が終り、川之江線と京柱線も開通しますね。」

村長「京柱線は徳島側がやっと遅れていますが、急がずとも遅くありません。それから基幹線林道谷間豊永線は四十一年に着工するよう体制を進めたいと思っています。北川林道は今年約四千五百万円ぐらいの工事を予定しています。また、このほかの農道など二十線も継続して進めます。」

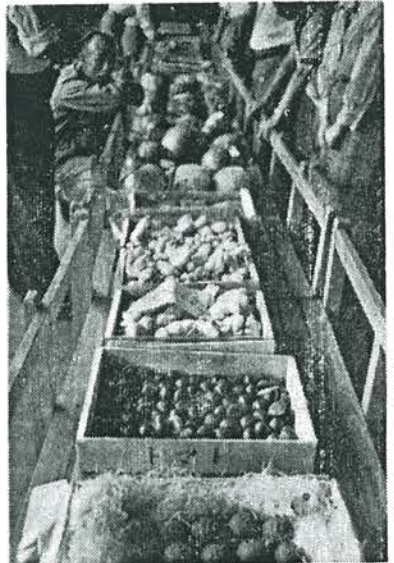


産業振興

国の施策における
む方向へ

司会「産業振興の施策としてはどのようなことを。」

村長「まず、構造改善事業が最終



(農産物コンクール)

年度で一応完成します。それで、つづいて第二次の指定を受けるよう準備を進めます。林業構造改善事業の指定を四十一年度に向け、四十一年度から実施できるよう体制を整えます。山村振興特別助成事業も二年目を迎えました。これも一段と充実したものになると思っています。」

議長「現在の経営規模は小さいですが、これを拡大するに、それなりに自己負担も増大するわけですから、これを純粋に助成して伸ばしていくというには限度があり、ましてや、おっしゃるよう、国や県の施策に盛り込んでいかなければならぬかと思いたすね。」

教育長「地方財政の貧弱さは、つらいところですね。」

村長「十年すれば、農家戸数も減り、経営形態も整理されてくると思います。ただ、その過程において農地や草場が山林化され、村外地主に流れるようなことがあつては困ると心配しています。」

教育行政

統合と給食が
面の課題

司会「教育行政で当面の問題はなんでしょうか。」

教育長「当面の問題としては、大杉中環境整備、東部四小の統合、給食施設などでしょうね。」

村長「杉の中は、とりあえず運動にきつかなない程度に敷地をほしいと思っています。」

司会「将来は総合グラウンドとして整備されたものにしたいものですね。」



(穴内小の給食)

村長「もちろんそうです。そのためには、どれくらい費用がかかるか、また、補助の対象になるかどうか研究して必要があればいいですね。」

議長「中学校の統合ということは現段階では、なかなか難しいでしょうが、東部四小の統合は、地元から強い要望が出ていますね。」

教育長「そうですね。岩原、大砂子西豊永、佐賀山(分)の四校です。現在、調査や用地交渉など行なっています。四十一年には統合準備体制を整える予定です。」

議長「いずれの統合にしても、国道改良の完成、幹線道路の開通などができれば今まではいい条件が揃ってきましてね。」

教育長「そうですね。給食問題でも給食センターを設け、自動車でも給食センターが設置できるといいですね。このセンター設置について

婦人活動に期待する

司会「国民健康保険の状況はどうですか。」

村長「現在、国保の特別会計はどうか赤字を出さずにやっています。楽観を許さない状況にありますが、従って保健衛生行政も積極的に進め、病気を少なくし、健康で明るい生活ができるような方向へもっていきなさいと願っているわけですね。」

教育長「公民館活動にも大いに関係がありますね。」

村長「そうですね。特に私は婦人会と青年活動を強化してもらいたいと思っています。また、そうした強力な活動の中から、新しい村づくりができてくるのではないかと期待しているわけですね。」

議長「青年は大人にならずに、組織活動も難しくなってきたが、今後は壮年層の活躍にもっと期待をかけた方がいいですね。」

司会「こうした一連の行政を進めていく上での、役員の体制というものは。」



西豊永支所長の前田波役場人事
徳氏は一月から東京の自治大学へ入校、三月末まで研修します。このため後任に小笠原俊信氏が兼任心得として発令されました。

は 旗 を
祭 日 の
祝 日 掲

なお、将来は附近の適地に事業

むかし天明のころ、某農家に二つ

この吉野川流域は狩猟を事とす

大杉農協 新築落成



(新築の大杉農協)

近代的美観をこらして、大杉農協の新築工事は昨年末完成、一月七日には落成式が行なわれ店開きしました。

新農協は鉄筋コンクリート二階建のモダンなものです。

一階が事務、販売室、その裏手が倉庫、二階は放送室、小会議室、大会議室(和室)になっています。内部設備も含めて約一千六百万円の経費がかかったそうです。

森林組合
本庁で事務開始
一月一日から発足した大豊村森林組合は、四日から役場本庁の小会議室で事務の取り扱いをはじめていいます。

従来どおり旧各組にも支所を設置してありますが、事務員一人のころは、とうぶん、用務に充じてあちこちして事務をとります。

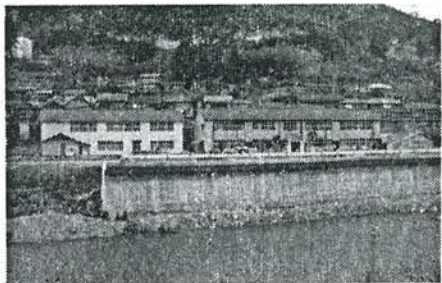
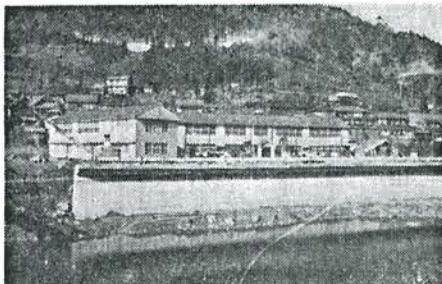
大杉中 校舎の移動終る

国道改良にともなう大杉中学校の校舎移転が十二月二十日から始められ一月二十日には基礎の上に完全にのりしました。

こんな大きな建物をそのまま移動させるのは、大豊ではめったにならないうことです。

この移転工費と両校舎をつなぐ渡り廊が、左端へ新設の作業室など、全部で二百三十万円かかりました。

(写真左は移転の様子)



①十二月二十五日ごろ。

②校舎は、そのまま横に引っぱっている。

③ようやく基礎の上に一端がかかり一回転をはじめる。

④対岸からみたところ。

⑤一月二十日、完全に基礎ののり並ぶ。左端に作業室がでる。

東豊永小、中学校 六町歩の学校造林

東豊永小、中学校に分収林経営による学校林ができました。

これは、学校施設の増設、進学奨励金の償還など恒久的対策のため、西村育夫氏ら有志の手で計画され、昭和三十九年三月に学校造林常任委員会が組織され、実施に移されたものです。

その後、昨年末まで植栽が終り、昨年の十二月二十二日に法人格組

農委会長に 森山氏決まる



(森山氏)

大豊村農業委員会では、会長の門田盛一郎氏が村収入役に就任したため、後任をきめる会を一月十四日に開き、森山茂貴氏(大杉農協組合長)を万場一致で選任しました。

また、森山氏は農協委員もしていましたが、会長就任のため後任として畑山善郎氏(角茂谷)が選任されました。

成人式

はなやかに挙行

なお、将来は附近の適地に事業の拡大をする計画も、もっているようである。

一月十五日の成人式は大田口中で行なわれ百六人(男女同数)のうち五十八人が出席されました。



郷土の歴史

大豊にも アイヌ種族が先住 西村自登

むかし天明のころ、某農家に二つか三つになる小児が居ました。ある日その子が大鷲(わし)にさらわれた事がありました。

時の本山の庄屋で吉本外市(号東源)という人が和歌二首をよんで、その不幸をあわれんだとい

「三代表録」に清和天皇の貞観四年、美馬郡を割いて三好郡を置く。三好の少領浄宗など五人に佐伯(さへき)の姓を賜うとする。『日本書紀』に景行帝五十二年、安志阿波、讃岐、伊予五国、佐伯はもととも、この流域に居住していたアイヌを引率して東夷征伐にいった日本武尊が、皇子息長御子に阿波君に任じ、アイヌ人を三好方面のアイヌ部落へ収容したので

この吉野川流域は狩猟を事とするアイヌ種族にとつては天与の獵場であつたので、河や谷をさかのぼってきたのでありましよう。

多いアイヌ語の地名

「三代表録」に清和天皇の貞観四年、美馬郡を割いて三好郡を置く。三好の少領浄宗など五人に佐伯(さへき)の姓を賜うとする。『日本書紀』に景行帝五十二年、安志阿波、讃岐、伊予五国、佐伯はもととも、この流域に居住していたアイヌを引率して東夷征伐にいった日本武尊が、皇子息長御子に阿波君に任じ、アイヌ人を三好方面のアイヌ部落へ収容したので

赤城の子守歌で有名な国定忠治の生れた上野の赤城山のふもとと群馬県新田郡等懸村岩宿の赤土のがけから、黒曜(よう)石でつくられた槍先形の石やじりが昭和二十四年に出土しました。

これをきっかけに日本にも旧石器時代(細石以前は無土器時代)が一万年以上あったのではないかと、学者間の論争となっていました。この石やじりに使用した黒曜石の原石は、信州和田峠以外に産地がありません。

したがって、この吉野川流域の池田や田井の上野から多数の石や田井の上野から多数の石やじりが発掘されたのは、この流域に魚や鳥獣がたぐさういて、原始人が狩猟して生活するには格好の土地であったことを物語っています。そして、それは一万年を越す昔のことであったと想像されます。

そのころは山におのれをいれず林木茂るに任せたり、野といわず山といわず、猪や鹿など禽獣がいたずらに繁殖しました。

ですから部落でも氏神のそとに牛頭天王、馬頭観音、荒神、道祖神等を祀つてあるのは、外敵防衛の名残りであります。

大領とは大郡の郡長で、少領は小郡の郡長であります。

この少領浄宗は、アイヌ人で始めて佐伯の姓を賜つたものであります。

西谷山村に久友(くぎ)という地名があり、豊永に久生野(くおの)という地名があります。また上流には穴内川、穴内、黒流、穴内(上)などの地名があります。これらは共にアイヌ語であります。

獵場の地名

本山や大杉、豊永などに鷹の巣(高須)、鷲の巣、弥九郎鳥屋(とや)、鳥屋の畝などの地名があります。

鳥屋(とや)とは獵場のことで

本山町の奇談

本山町大石に奇談があります。

心配事相談所

毎週

火曜日 旧大杉農協二階

水曜日 東豊永公民館

金曜日 役場西豊永支所

午前九時から午後四時まで

相談所をご利用の方は、相談員の都合上、なるべく相談日の三日ぐらい前に上記場所か役場住民課社会福祉協議会事務局までご連絡下さい。

